2017 年度活動報告書

2018 年５月 31 日

特定非営利活動法人　イカオ･アコ

目　次

１　スタディツアー事業
２　フェアトレード事業
３　ＪＩＣＡ草の根技術協力事業パートナー型
４　緑の地球防衛基金による活動
５　緑の募金国際緑化公募事業
６　地球環境基金
７　TOTO 水環境基金
８　日本国際協力財団
９　日本教育公務員弘済会本部奨励金
10　年賀寄附金
11　イオン環境財団助成事業
12　企業連携
12.1 ニチバン
12.2 アストモスエネルギー
13　植林実績
14　イカオ・アコ国際協力研修センター
15　カフェ Midori
16　国内活動
17　会計報告
18　監査報告
19 寄付者一覧

１．スタディツアー事業

名　称	開催日時	開催場所	参加者	備　考
日本大学スタディツアー	8/16～8/22	ネグロス島	4 名	第 2 回
桜丘高校スタディツアー	8/18～8/24	ネグロス島	8 名	第 12 回
中京大学ボランティアサークルのツアー	8/24～8/30	ネグロス島	3 名	第 1 回

バラリン村でのエコツアー（桜丘高校）

２．フェアトレード事業

2017 年度の売り上げは 151 千円であった。2014 年ピーク時に比べて 30%に減少した。高校生の販売に頼る状況にある。

（今後の課題）
・ネットショップの機能を十分に活用し、顧客の利便性を高めたい。
・ボホールの新商品に期待したい。

ボホール発の新商品

売れ筋のマイバッグ(大)

３．ＪＩＣＡ草の根技術協力事業パートナー型

「環境教育による３R 推進と循環型社会の形成プロジェクト」

先進国だけでなく、開発途上国は経済成長とともに、資源制約と環境制約が明らかになり、フィリピンでもその対応として循環型社会を目指して行く必要がある。ウバイ郡において、このまま無策の状態が続くと、最終処分地が満杯となり、発生したゴミの収容が不可能となる。ゴミの不法投棄が多くなり、河川、海を含めた地域全体の環境負荷がより大きくなる。

活動目標として、対象地域の教育機関・地域で環境教育を実施し、住民・生徒において３Ｒの意識が高まり、地域でごみの分別・減量化が実現することを掲げている。

4 年の事業期間のうち、2 年半の期間が過ぎた。カウンターパートを中心とした組織が持続可能なプロジェクトと位置付けるためには、液肥の利用拡大、３R 意識の町内全域への拡散が必要である。

４．緑の地球防衛基金による活動

2017 年度は、緑の地球防衛基金より 636,300 円（昨年度は 836,700 円）のご支援を頂き、ネグロス島イログ郡ボカナ村にて、1 万本の植林及び歩道橋の建設(180m)に活用した。一部、ニチバン株式会社様の植林活動が同時並行で行われている。ボカナ村はマングローブ植林の成功事例である。

2009 年に植林を開始して、現在、立派な森に成長した。GoogleMap でもその成長を確認する

ことができる。また、地元のテレビでもそのエコツーリズムが紹介され、ドローンを使用した映像は圧巻である。

2009 年 5 月に植林を開始した。海岸線には何も植わっていなかった。

2017 年にはこのように海岸線がマングローブで覆われた。新たに建設された橋も見える。

5．緑の募金国際緑化公募事業

上・下流部住民の交流による流域の森林再生（第 1 年次）

①事業目的・概要

本事業は、フィリピン西ネグロス州シライ市を流れるマリスボッグ川の流域において、流域の自然の回復と住民の環境意識の向上のために、上流部及び沿岸部において植林活動と植林祭を行う。植林活動には、日本人ボランティア、現地ボランティア、現地小学生、高校生が参加し、苗木（上流部 3,000 本、沿岸部 10,000 本）を植林する。上流部と沿岸部の植林祭を行政と協力し、開催する。上流・下流の地域住民を巻き込むことで、地域全体の啓発事業となることを目的とする。

②事業内容

・上流部の植林　原生種・果樹など 20 種類以上の苗木を 3,000 本植林する。

・沿岸部の植林　マヤプシギ、ヒルギダマシのﾏﾝｸﾞﾛｰﾌﾞ苗木を沿岸部に 10,000 本植林する。

・植林祭の開催（上流部）　上・下流部の住民団体のメンバーを上流部の植林地に集め、植林活動と上流部での環境保全・有機農業の取り組みの視察を行う。さらに、メンバー同士の交流のためのイベントを行う。

・マングローブ祭の開催（沿岸部）　上・下流の学生をマングローブ植林地に集め、植林活動を行った後、流域のつながりを表現する文化発表会を行う。

③事業場所

フィリピン西ネグロス州シライ市バラリン村パタッグ村、ギンバラオン村、ランタッド村″

面積（植栽等）　11.5　ヘクタール

延長（歩道等）　100　メートル

6. 地球環境基金　2017 年度事業の概要（完了報告書より抜粋）

その5-1（助成期間が1年の団体及び助成期間が2年以上で今年度活動が終了しない団体）

整理番号　29－イ－ C9

「平成29年度地球環境基金活動報告集」用原稿

（法人格）（特非）　（団体名）イカオ・アコ

（活動名）フィリピンの水源地域におけるサトウキビ畑の有機農業への転換

【アウトプット実績】	数値	単位
コーンポストの生産量（16字以内→）	3.6	トン
デモファームの面積（16字以内→）	25	アール
OK【今年度計画の達成度】	100	%
OK【目標達成度】	80	%

（写真①のタイトル）20字以内

農業組合メンバーとスタッフデモファームで

【課題】80字以内　69文字　文字数OK

農地改革で水源地域の不利な立地にあるサトウキビ畑を割り当てられた小規模農家が、化学肥料を使ったサトウキビ栽培をし、採算が取れていないこと。

【目標】80字以内　80文字　文字数OK

化学肥料や農薬を利用した収益性の低いサトウキビ栽培から、環境にやさしく収益性の高い有機農業に転換することで水源地域の環境を保全しつつ住民の生活が豊かになること。

【活動内容と成果】250字以内　199文字　文字数OK

アンケート調査により、現状の農薬の使用量を把握した。GOFAのメンバーが毎週集まって、デモファームの整備、ナーサリー・コーンポスト小屋の建築、苗木・コーンポストの生産、デモファームの整備を行った。実践を行いながら、有機農業の技術を移転した。デモファームで生産した野菜の一部を販売した。チームビルディング研修と、有機農業活動発表会というイベントを開催し、メンバー通し及び他のグループとの親交を深めた。

（写真②のタイトル）20字以内

堆肥づくりをしているところ

★上記課題解決のために、今年度取り組んだ内容及び活動の成果（アウトカム）を簡潔に記載して下さい。活動のすべてを記載しきれない場合には1つの活動を取り上げて下さい。

【苦労した点と工夫した点】

■苦労した点：60字以内　47文字　文字数OK

プロジェクトを始めるにあたって、農業組合のメンバーとの関係性の構築。メンバーが定着しないこと。

■工夫した点：60字以内　51文字　文字数OK

イカオ・アコが以前から支援を行っている他のグループと交流させることで、イカオ・アコへの信頼性を高めた。

【今後の展望】100字以内　71文字　文字数OK

コーンポストの生産量が目標より少ないので、生産量を増やす努力をしたい。次年度は、各メンバーの土地の有機農業の面積を増やせるように指導していく。

【事務所所在地】

（〒・住所）〒450-0001名古屋市中村区那古野1-44-17嶋田ビル3F

（電話番号）050-5579-7651

（E-mail）ikawako.mangrove@gmail.com

（HP）http://ikawako.com/

【QRコード】★団体様HPへリンクするQRコードを作成し貼付します。（機構で作成）

【活動地域】フィリピン

【助成メニュー】ひろげる助成

【活動年数】1 年目

【活動形態】実践

7. TOTO 水環境基金

プロジェクト名	水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう
主な活動地域	フィリピン　西ネグロス州シライ市、ギバラオン村シバト地区
プロジェクト総括 ＜活動報告＞	毎月、定例の会議をイカオ・アコが主催で本事業に関する会議を実施した。イカオ・アコの企画でアンケート方式で住民215世帯に水利用に関する住民意識調査を行い、分析を実施した。そのデータを活用しながら、イカオ・アコの主催で役所と共に住民説明会を開催し、配水システムの建設について住民の同意を得た。また、住民が主体的に建設労働（10名）に従事する同意を得た。Aid Foundation の支援を得て、地域の地形などを詳細に分析し、配水システムの構築が可能であることが明らかになった。学校・コミュニティセンターと住宅までのルーティング、タンクの大きさ、ランポンプの仕様などの詳細設計（図面・仕様）を行った。住民とともに材料等の購入とランポンプ業者との打合せを実施。 ※第１１回活動報告書→ https://jp.toto.com/company/environment/social/mizukikin/pdf/report_11.pdf の「活動報告」事例を参考に、活動の狙い、活動実績、成果等をご記入ください。（300～350字程度）

（2）定性的な成果・効果

① 当活動は地域のどのような状況や課題について取り組む活動といえますか？（簡潔に自由記述）

簡易水道がないため、1キロ以上離れた川（高低差60m）で水を汲み、水牛が運んでいる。まず、公共施設である学校と集会所に簡易水道を敷設する。実現すれば、教育現場の衛生環境は格段に向上する。

⑥ この活動を始める前と活動を行った後の状況について、どのように変わりましたか。変化のストーリーをお聞かせください。（自由記述：（例）「活動の前は〇〇だったが、活動の結果、△△が□□のようになった」など）

イカオ・アコはシバト地区で4年間、住民（協同組合）と日本人が協働で植林を実施してきた。10ヘクタールの植林を完了し、原生種、果樹、コーヒー、カカオ等を植林した。農家の収入向上につながるよう配慮したが、植栽した果樹等が実をつけるまでには少なくともあと数年がかかる。それに対して、水の容易な確保は重要で、目に見える生活基盤であり、その実現に対する期待は会議を重ねるたびに大きくなっている。

⑦ 活動に参加した方からの感想があればご記入ください。（自由記述、何名分でも可）

学校の教員たちから、給配水システムに対する期待が大きく、いつ完成するのか、一日でも早く水を利用したいという声が寄せられている。農家からは生活用水だけでなく、農業への灌漑用水への利用の声が寄せられている。

2. 助成対象事業全般の評価・課題・反省点について

	当初予定	相違点
ｽｹｼﾞｭｰﾙ	住民の合意を得て、RamPump設置の直前まで	特段、相違はない
実施事項	大学側の都合でワークキャンプを実施せず	大学の都合により、この場所での実施を中止
効果	現地住民、学校、行政からの期待が大きい	特段、相違はない

＜全般の評価・課題・反省点＞	達成度自己評価（100点満点）	90	点

計画段階での支障はなく、順調に1年間が推移した。小人数の日本人のボランティアが現地の人と共に作業をすることで、給排水システム、畑、植林した木が日本からの援助によるものであるという事が現地の人たちの心に残り、いつまでも大切にされるという心理的効果が期待できる。ただ、大規模なワークキャンプを実現することができなかった。電気、水道の無い環境で、大学を動かしてワークキャンプを実施することは困難と考える。

この前進として実施したパタグ村バリグワン地区の同種の事業が、７月に「日本水大賞」を受賞し、秋篠宮ご夫妻ご列席のもと、顕彰された。

8. 日本国際協力財団

①プロジェクト名：フィリピン貧困農山村における環境調和型観光農業の育成事業

②実施地域：フィリピン西ネグロス州シライ市パタグ村

③援助対象者及び対象者数：住民組織 BAFA のメンバー30 名

④上位目標：住民組織 BAFA の 20 家族がイチゴ栽培の推進者となり、パタグ村の新たな観光資源（観光農園）としてネグロス島で認知され、さらに観光客が増加する。

⑤事業目標：事業地にイチゴ栽培関連のハードウエアが整備され、栽培のトレーニングを事業地

で行い、住民組織 BAFA のメンバーのうち、4 名がイチゴ栽培技術を指導者として習得する。そして、イチゴ栽培を開始し、収穫できる。

5 事業内容：

BAFA メンバー4 名と後藤がイチゴ生産で有名なバギオにて研修を受講し、イチゴ栽培の基本技術を習得した。4 名（日程が合えば後藤も参加）がその技術を活用し、パタグ村でその他の BAFA メンバーに啓発する研修会を継続して行っている(月 1 回のペースで全体会議を持ち、座学と実習で栽培技術の指導、イチゴ栽培の現状を報告)。その 4 名のうち、2 名が温室を日常的に運営している。他の 2 名は温室・コンポストハウスの建設・メンテナンスに関わった。

計画通り資機材を買い揃えて、計画した温室を 4 棟建設した。ここでイチゴ栽培を開始した。コンポストハウスも建設済である。ここから有機肥料を得て、イチゴに与えることができる。本事業では有機肥料を優先的に使用し、不足するリン(開花を促進する)を補うために化学肥料を若干使用する。害虫駆除のため若干の農薬を使用せざるを得ない。できるだけケミカルの使用を控える減農薬農業を目指している。多くの果実を得ることはできないかもしれないが、安全なイチゴを供給する仕組みを構築することができた。

購入した 100 個の苗は、現在 500 まで増え、順調な滑り出しである。いくつかの苗は果実をつけてた。併設するカフェやダウンタウンのカフェに数回出荷することができた。

9. 日本教育公務員弘済会本部奨励金

①プロジェクト名：高校による途上国へのスタディツアーの意義と効果　－レポート等のテキストマイニング手法による解析－

②研究成果

対象となる高校は海外スタディツアーをイカオ・アコと一緒に実施した 5 校である。4 府県にまたがっている。また、公立高校が 2 校、私立高校が 3 校である。

参加者のレポート類 198 件をデジタル化し、SPSS のテキストマイニングの手法により、①フィールド学習の効果、②海外の友人との出会いの影響、③現場から学ぶことの意義、④社会問題などの認識度合いを認識することが可能である。また、ツアー前に多くの高校生は語学力の自信の無さを心配していたが、分析結果から語学力の問題はかなり吹っ切れていることもわかった。

高校生の報告研究会を 2 回実施したほか、ツアーを実施した高校 3 校、ツアー面でサポートした民間企業 3 社の関係者にインタビューすることにより、上述したような、ツアー後の学習意欲の変化、その後の SNS による国際交流など教育効果が明らかになった。

途上国の植樹ツアーの活動と他の国々との違いは、決して楽しいとはいえない泥の中に足を踏み入れ行う植樹活動、また、衛生面でも決して安全とは言えない中での滞在生活、日本では当たり前にあるものがないという不便さ…そうしたことを経験してきた生徒たちが帰国後に必ず口にする言葉が「行ってよかったです」、「もう一度行きたいです」という言葉です。それは何かを成し遂げた達成感や、世界の人々のために自分がその力になれたという実感が得られたからです。

現地の高校生の明るさや積極的な交流の姿勢を非常に感じ、中身の濃い交流をすることができ学んだ英語を積極的に活用するよい機会になったとともに、自ら働きかけ、相手から学ぶということを体験する機会にもなっている。同年代の高校生との交流プログラムは生徒にとってよい刺

激となり、学びへの意欲を喚起する大きな原動力になっている。

先進国での語学研修は「世界を知る」きっかけとなり、開発途上国でのスタディツアーは「世界がわかる」きっかけとなったと言えるだろう。また、世界が抱える諸問題を解決していくことのできる人材を育成していくためにも、途上国スタディツアーが高校生に広がっていく取り組みが今後必要であると考える。

10. 年賀寄附金

日比の若年層を対象とした 環境配慮型グローバル人材の育成のための ESD 事業

申請書に挙げた具体的成果目標	実施による成果
●中核となる学校 3 校の協力を得ながら、セミナーの参加者人数約 200 人を目標とする。	●目標の 200 には到達しなかったが、力量のある高校生が 50 名参加して、本企画に賛同し、参加者を募っていくこととなった
●七夕短冊コンテストへの参加校を愛知県西部中心に集める。フィリピンでも参加校を募集する。	●日本で 6 校（350 名）の参加校を集め、短冊を日本福祉大学東海キャンパスに飾る。フィリピンからの参加校は 2 校（100 名）。
●マングローブ植林のスタディツアーへの参加者を募集し、夏休みに敢行する。現地で七夕短冊コンテストの参加者と交流。	●日本人 8 名、フィリピン人 300 名以上の参加者を得て、交流
●ESD メッセージコンテストの参加者を募集し、優秀作には賞状と賞品を授与する。	●教育委員会と議論した結果、提案通りコンテスト形式で実施することとなった。豊橋市からすべての小中学校 74 校の参加があった。
●高等学校等の文化祭や国際交流イベントでのフェアトレード商品を販売する。	●3 回のイベントにてフェアトレード商品の販売

申請時に想定した先駆性・社会性・実現性・緊急性への対応状況

3 校の協力を得ながら、学校の範囲を拡大し、愛知県の中高校生を対象に、七夕短冊コンテスト、ESD メッセージコンテスト、フェアトレードイベント等を実施した。「学習・体験・実践」という流れで、一貫性を持った事業を行い、総合学習を超えた ESD となることができ、一部をフィリピンでも行うことから国際的な発展性と先駆性を持つ。

イカオ・アコと中核的な 3 校の関係だけではなく、行政、マスコミ、他校、市民などあらゆる層を国際的に巻き込む、魅力的なプロジェクトであり、社会的な波及効果が大きい。1 校はフィリピンの高校と公式に連携協定を結ぶこととなった。また、CSR でフィリピンのマングローブの再生に取り組んでいるニチバン株式会社から本事業への支援（賞品の提供）があった。

2014 年 11 月に名古屋で「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）」に関する世界会議が開催された。それに呼応して、各団体、各学校が多様な取り組みを進めている。それらの取り組みを一過性のものとせず、地域の関わりをさらに意識して、課題の解決につながる新たな行動を生み出すことができる機会であった。

11．イオン環境財団　助成金事業

先住民族の命の森復活プロジェクト（第１年次）

写真１　SAFFAのミーティング

写真２　植林をした苗木

写真３　メンテナンスが完了した植林地

本プロジェクトは、シライ市の水源域で、先住民族が住む村、シバト村にある、サトウキビ畑放棄地(草むら)を森林に戻そうという取り組みである。イカオ・アコでは、2014年からこの村の住民の中から植林活動に協力してくれる人を募り、SAFFAという組織を結成してもらい、SAFFAのメンバー(22人)と共に植林活動に取り組んできた。

4月～6月にかけては、今年度から3年間かけて、10ヘクタールの土地を森林に戻すため、取り組みを行っていく旨を、SAFFAのメンバーに説明し、合意したうえで、共に植林や植林後の利用計画、植林に利用する堆肥づくりの計画を立てた（写真1）。

そして、6月、現地スタッフが実際に植林を行う場所を1か所ずつ周り、植林に適しているかどうか、所有地の境界はどこか、植林面積はどうか、植え付け前の準備をどのようにするかなどの確認を行った。

7月には、隣村で購入した苗木を2万本ずつ、3日間に分けて搬 入し、ナーサリーにて育成した。

8月～11月にかけて、22ヶ所にわたって順次、地拵え・植林準備・植林の作業を行っていった（写真２）。それぞれの植林地が離れているため、作業を行った日がばらばらになっている。

その後、3ヶ月後に下草刈りなどのメンテナンス活動を行い、現地スタッフが所定の本数の苗木が育っていることを確認し、メンテナンス費用を支払った（写真３）。

植林を行っている土地は、長年草地であったため、土地がやせている。そこで、植林した苗木を確実に育てるために、有機物を混合し、発酵させた堆肥を作ることにした。

メンバーに、堆肥づくりに必要な材料を集めてもらい、一緒に堆肥を作り、それを各自の植林地に使用し、それにかかる費用は、植林準備費用とメンテナンス費用に含むということで合意した。

12. 企業連携

12. 1　ニチバン株式会社

キャッチフレーズ：ニチバン巻心 Eco プロジェクト

ニチバン株式会社と共に、2010 年度にニチバン㈱と使用済みテープの「巻心」（芯じゃなくて、ココロです）を資源回収して、ダンボールに再生した収益金をイカオ・アコに寄付していただく仕組みを作った。

2017 年に寄付していただいた苗の本数は 27,328 本である。マナプラ郡、EB マガロナ郡、シライ市、イログ郡に植林した。

■活動期間：2017 年 4 月～2018 年 3 月

■活動地域：フィリピン共和国・ネグロス島

■植樹本数：27,328 本

日付	サイト	本数	参加者
4/6/2017	Dapdap	500	40
4/7/2017	DapDap	300	8
5/5/2017	Balaring	100	5
5/11/2017	Pasil	1,060	63
6/9/2017	Balaring	1,000	59
6/10/2017	Tortosa	1,000	35
6/14/2017	Pasil	1,060	122
6/21/2017	Pasil	1,060	57
6/30/2017	Pasil	1,060	57
7/1/2017	Balaring	280	35
7/20/2017	Pasil	1,060	55
7/27/2017	Balaring	400	69
7/29/2017	Balaring	500	13
8/4/2017	Pasil	980	53
8/5/2017	Balaring	600	40
8/11/2017	Pasil	960	48
9/15/2017	Pasil	1,027	51
12/21/2017	Pasil	1,733	53
2/1/2018	Pasil	1,590	52
2/3/2018	Balaring	300	22
2/16/2018	Balaring	200	6
2/17/2017	Balaring	50	10
2/23/2018	Bocana	3,000	30
2/23/2018	DapDap	200	42
2/25/2018	Balaring	170	10
2/25/2018	Dapdap	130	10
2/28/2018	Pasil	1,590	51
3/9/2018	Tortosa	1,339	40
3/14/2018	Pasil	1,820	58
3/22/2018	Dapdap	870	60
不明	不明	1,389	不明
合計		27,328	1,254

12．２　アストモスエネルギー株式会社

■活動期間：2017 年 5 月 1 日～2018 年 4 月 30 日
■活動地域：フィリピン共和国・ボホール島ウバイ郡ビアバス村
■植樹本数：14,300 本　（補植 3,300 本含む）

≪概要≫

アストモスエネルギー（株）からイカオ･アコに連携の要望があり、2010 年度から「あすをともす森づくり」活動が始まった。この活動は、アストモスガスグループ各社だけはなく、アストモスガスを利用している顧客とともに「あすをともす森づくり」活動を行うことを目指し、オレンジレター（アンケートはがき）の返信１枚につき1 本の植樹を行っている。今年度は11,000本の植樹、枯れてしまったところへ3,300本の再植樹をすることを目標とした。8年間の合計本数は、補植数も含め151,823本に達した。

植林までの経緯：

2017 年 8 月～	新しい駐在員が 7 月末に着任後、ウバイ郡内外を含めマングローブ植林に適した土地、協力団体を探してきた。
11 月 3 日	・以前イカオ・アコが植林を行った実績のあるビヤバス村のコミュニティのリーダーにアポイントメントを取り、新たな植林の可能性を打診すると同時に、過去の植林の経験、持続的な管理の実績などを話し合う。 ・その後イカオ・アコ内で協議し、今回の植林をここで行うことを決定。 ・以前の植林実施後、漁師たちが誤って植林エリアに漁船で侵入してしまうことが起こり、苗の定着に悪影響があった。潮の満ち引きで植林した苗が見えなくなる。どこで植林したエリアか、わかりにくいことが原因だった。その経験を受け、今回は植林エリアを竹のフェンスで囲い、漁船による被害を防止する対策を取ることとなった。 ・植林の費用は前回と同じ内容で合意
11 月 16 日	協力団体のリーダーをイカオ・アコ、ウバイ事務所に招き、今回の植林を依頼。
12 月 21 日	植林の実施

協力団体 PO(People Organization の略)

名前：Biabas Farmers & Fisherfolk Association

今回植林した種：　ヒルギ（現地名 Bakahawo）の胎生種子

参加人数：イカオ・アコウバイ事務所　　3 人

（菅原亮、チャム・グルモ、チャルロ・アンピット）
Biabas Farmers & Fisherfolk Association　39 人
計 42 名

植林当日の様子

当日朝、現地に集合して植林に必要な物資を船で現場に運んでいる様

植林の様子。
途中で雨に降られ皆ずぶ濡れになっていましたが、頑張って下さいました。11,000 のヒルギを無事に植林完遂致しました。

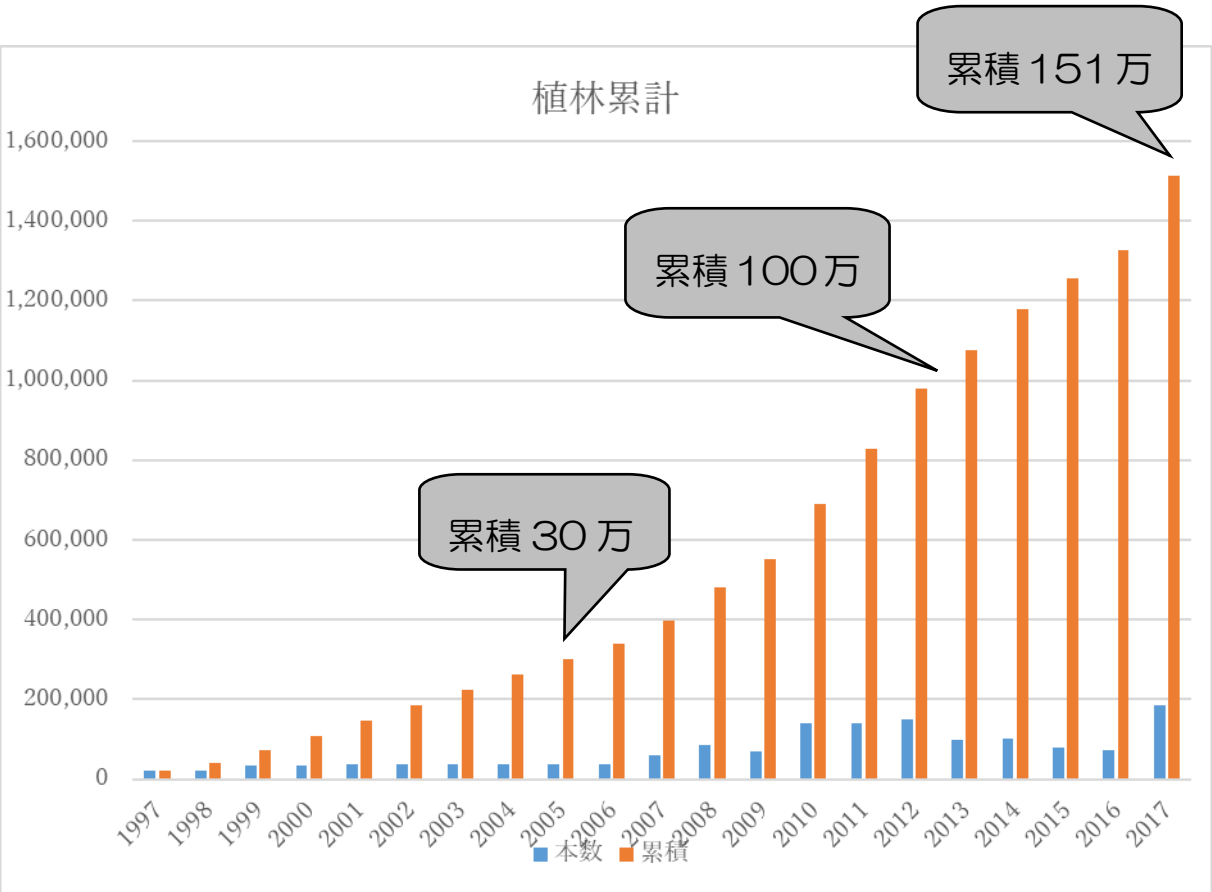
13. 植林実績

2017年度の植樹本数は、ネグロス島で170,884 本、ボホール島で14,300 本、合計185,184本(過去最高)である。

主に、ネグロス島は、ニチバン（株）、緑の募金、イオン、緑の地球防衛基金などによるものである。

ボホール島では、ウバイ郡でアストモスエネルギー（株）との連携で成果である。

累積本数は、当初の目標であった「2015年までに100万本」を2013年度で達成し、2017年度末では151万本となった。



14. イカオ・アコ国際協力研修センター事業

２０１７年度のセンター利用者は合計で延べ３３人でした。その内訳は、英語研修が２６人（うち地球の歩き方インターンシップツアー経由が２０名、直接申し込みが６名）、リピーターで４日間のボランティアが２名、中京大学のスタディツアーが３名、長期インターン１名、短期インターン１名でした。

英語研修の延べ利用者数は、３３週間と昨年度の４６週間から大幅に減りました。内訳は、地球の歩き方経由の申し込みが８名減、スタツア利用が３名減、直接が５名減などです。

しかし、経営面では、専属のスタッフをなくしたため、２８万円の黒字となりました。

２０１７年６月から、ボランティア募集掲載サイト、Activo に掲載を始めました。今年度は、８名からお問い合わせをいただきましたが、成約にはつながりませんでした。

今後、ターゲットを絞り、ホームページのリニューアルも含め、集客方法を検討していかなくてはなりません。

高校生たちと歓迎のダンス

七夕短冊コンテスト

高校で日本文化の紹介

小学生と折り紙

15. カフェＭｉｄｏｒｉ

ビクトリアス市オーガニックマーケットに移転して１年がたったカフェみどりですが、オーガニックマーケットの品薄状態が依然続いています。そのような中、ヘッドシェフのアニーさんが産休に入り、育休期間も思ったより長くなってしまったこともあり、アニーさんが休んでいた５～７月の売り上げは芳しくありませんでした。８月に回復したものの、また、９月以降売り上げが落ちていました。しかし、２０１８年１月以降売り上げが少し回復傾向にあります。年間通してでは、２３万円の赤字となりました。

しかし、オーガニックマーケットの方が、３月に再稼働を始めましたので、オーガニックマーケットとの相乗効果により、売り上げが伸びることを期待しています。

カフェのスタッフは、アニーさんとアニーさんのお友達のノエミーさん、シライから継続して働いてくれているマリアリーさんとメリージェーンさんの４名となりましたが、少ない人数でもお互いを思いやって助け合いながらカフェの運営にあたってくれています。これからもスタッフ一丸となって、イカオ・アコのアドボカシーを伝える場として、カフェを活用していきたいと思っています。

2018 年 5 月より新メニューを導入
お土産品の売れ筋は、ターメリックジュースとパタッグ産のコーヒー。

16. 国内活動

月	主な活動
4	名古屋へ事務所を移転　TOTO 水環境基金交流会　リサイクルグッズを委託販売 地球環境基金助成金についての面談　付属高校で講演　インターン赴任
5	桜丘高校にて総合学習支援　定時総会の開催　ニチバン㈱へ昨年度活動報告 アストモスエネルギーへ昨年度活動報告　JICA 本邦研修受入　NHK テレビ放映
6	桜丘高校にてツアー説明会 フジクリーン株式会社出版物「水の話」に原稿提供
7	司法書士へ登録など委託　七夕短冊コンテスト　日本水大賞授賞式 日本福祉大学付属高校スタディツアー　リサイクルグッズを販売　JANIC と打合せ
8	桜丘高校スタディツアー ニチバン安城工場にてイカオ・アコと付属高校が植樹報告
9	桜丘高校にてアクションプランコンテスト支援 アイセックと懇談
１０	桜丘高校学園祭にてエコグッズを販売 付属高校と打ち合わせ　日本福祉大学学園祭にてリサイクルグッズを販売
１１	付属高校がリサイクルグッズを販売 私立大学環境問題懇談会にて講演
１２	国際協力カレッジの出展 桜丘高校より T シャツ 900 枚受け取り・フィリピン送付
1	草の根ネットワーク協議会出席
2	国際協力財団面接 イーパーツ贈呈式　中京テレビと放映について打ち合わせ
3	名古屋事務所へ本格的引っ越し 日本教育公務員弘済会助成金贈呈式　NFU がリサイクルグッズ販売

その他の継続的な活動

・植林ツアーの企画、参加者の募集、説明会の開催など

・プロジェクト提案書、報告書などの作成

・国内関係機関との打合せなど

17. 会計報告

活動計算書

平成 29年4月1日　～　平成 30年3月31日　まで

（単位：円）

科　目	特定非営利活動に係る事業	その他の事業	合　計
Ⅰ 経常収益			
1．受取会費			
正会員受取入会金	80,000		80,000
正会員受取会費	0		0
賛助会員受取会費	0		0
2．受取寄付金			
受取寄付金	3,562,851		3,562,851
3．受取助成金等			
受取助成金	22,967,644		22,967,644
4．事業収益			
フェアトレード事業収益	0	151,186	151,186
非営利活動事業	4,044,277		4,044,277
5．その他収益			
受取利息	32,136		32,136
雑収入	0		0
経常収益計	30,686,908	151,186	30,838,094
Ⅱ 経常費用			
1．事業費			
(1)人件費			
給料手当	7,074,767	0	7,074,767
法定福利費	0		0
人件費計	7,074,767	0	7,074,767
(2)その他経費			
諸謝金	24,880		24,880
印刷製本費	16,096		16,096
会議費	7,790		7,790
旅費交通費	3,681,181		3,681,181
通信運搬費	209,559	0	209,559
消耗品費	2,412,879		2,412,879
水道光熱費	0		0
賃借料	657,602		657,602
減価償却費	0		0
租税公課	43,890	0	43,890
雑費	6,698,567	151,186	6,849,753
その他経費計	13,752,444	151,186	13,903,630
事業費計	20,827,211	151,186	20,978,397
2．管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		0
給料手当	2,539,906		2,539,906
法定福利費	349,122		349,122
人件費計	2,889,028	0	2,889,028
(2)その他経費			
諸謝金	27,548		27,548
印刷製本費	29,343		29,343
会議費	42,746		42,746
旅費交通費	419,882		419,882
通信運搬費	189,225		189,225
消耗品費	359,648		359,648
水道光熱費	165,241		165,241
賃借料	320,571		320,571
減価償却費	0		0
保険料	0		0
租税公課	107,741		107,741
雑費	3,409,429		3,409,429
その他経費計	5,071,374	0	5,071,374
管理費計	7,960,402	0	7,960,402
経常費用計	28,787,613	151,186	28,938,799
当期経常増減額	1,899,295	0	1,899,295
Ⅲ 経常外収益			
1．過年度損益修正益			0
経常外収益計	0	0	0
Ⅳ 経常外費用			
1．過年度損益修正損			0
経常外費用計	0	0	0
経理区分振替額	0	0	0
当期正味財産増減額	1,899,295	0	1,899,295
前期繰越正味財産額			5,365,063
次期繰越正味財産額			7,264,358

貸借対照表

平成30年3月31日現在

特定非営利活動法人イカオ・アコ

単位：円

科目・摘要		金額		
Ⅰ資産の部				
１流動資産				
現金預金		7,264,358		
未収金		0		
前払費用		0		
流動資産合計			7,264,358	
２固定資産				
車両運搬具	0	0		
減価償却累計額	0			
什器備品	0	0		
減価償却累計額	0			
電話加入権		0		
固定資産合計			**0**	
資産合計				**7,264,358**
Ⅱ負債の部				
１流動負債				
未払金		0		
短期借入金		0		
流動負債合計			0	
２固定負債				
長期借入金		0		
固定負債合計			**0**	
負債合計				**0**
Ⅲ正味財産の部				
前期繰越正味財産額			5,365,063	
当期正味財産増加額			1,899,295	
正味財産合計				**7,264,358**
負債及び正味財産合計				**7,264,358**

財産目録

平成30 年3月31日現在

特定非営利活動法人イカオ・アコ

単位：円

科目・摘要	金額		
I資産の部			
１流動資産			
現金預金			
現金　　現金手許有高	272,844		
普通預金　三菱東京UFJ銀行武豊支店	3,248,511		
普通預金　ゆうちょ銀行１０８支店	3,743,003		
未収金			
	0		
前払費用			
	0		
流動資産合計		**7,264,358**	
２固定資産			
車両運搬具	0		
什器備品			
ファクシミリ1台	0		
固定資産合計		**0**	
資産合計			**7,264,358**
Ⅱ負債の部			
１流動負債			
未払金			
	0		
	0		
	0		
	0		
	0		
前受金	0		
預り金	0		
流動負債合計		**0**	
２固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		**0**	
負債合計			**0**
正味財産			**7,264,358**

18. 2017 年度会計監査報告

2017 年 4 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日までの 2017 年度会計年度における会計及び業務の監査に際し、関係書類を調査した結果、すべてが適正に処理されており、遺漏、過誤のないことを確認しました。

2017 年 5 月 31 日

監　事　　石川　晃子

19. 寄付者一覧

順不同、敬称略

企　業	団　体	個　人
アストモスエネルギー(株) ニチバン(株) 横浜ゴム（株） （株）シーテック （株）えびせんべいの里 ㈲JTC Gooddo	桜丘高校・桜丘中学 名古屋 NGO センター 日福大学付属高校国際協力部	タムラマサシ ワタナベアケミ ゴトウヨリヒサ スズムラマサノリ

ありがとうございました！